

丸山眞男著「外国語をマスターするのにいちばん大事なこと」丸山眞男集 第四巻 岩波書店 1995年10月6日刊を読む

勉学についての二、三の助言—外国語をマスターするのにいちばん大事なこと—

1. (1)外国語をマスターするのに一ばん大事なことは、外国語のスタイル或はさらにはっきり言ってしまうと、外国語の「癖」に慣れることです。
- (2)それにはなんといっても多読するのが第一ですが、多読といっても実際問題としては自らかぎりがあります。
- (3)そこでまずおすすめしたいのは、何でもいから自分の実力で比較的容易に読める本を選んで、それを頭から読んで行くのです。
- (4)という意味は、一々文法を考えたり、この関係代名詞はどこにかかるかというようなことを一切考慮しないで、英(独仏)語から直接内容を理解するようにつとめることです。
- (5)はじめは眼で見て行くだけではむずかしいから音読するのがいいと思います。
- (6)音読して自分の声を耳にききながら即座に理解してゆくのです。
- (7)一度読んで分からぬところがあっても、それに拘泥しないで、もう一度そのパラグラフのはじめから、少しテンポを落して読んで行く。それでも分らなければ、更にゆっくりと読み直す。
- (8)要するに大事なことは決して、ひっくり返して——つまり日本語の文法に直して読まないで、原語の配列をくずさないで理解するように練習することです。
- (9)こういう読み方に慣れると読書のスピードがぐっとちがって来ます。
- (10)それにどういう場合に一定の語法をつかうかということも自然におぼえられて来るはずで
- す。
- (11)身近な例を挙げていえば、but という字には「しかし」という意味と、否定をうけて「何々ではなくして」という意味と、それから except という意味とがある、というふうに抽象的におぼえたのでは実際文章でぶつかった場合に一つ一つあてはめてみないと分らないわけです。
- (12)ところが平常棒読みをしていれば、そういう操作を経ないで、文章のつづき具合からして直ちにそのどの場合かが明らかになり、ほかの読み方をしようと思っても、不自然でとうてい出来ない^{はず}筈です。
- (13)それがつまり言葉の「癖」に慣れるということ。近頃は中学生ならともかく高等学校(旧制)の学生のうちにも、フレーズの「公式」を集めたようなものを暗記している学生を見かけるのですが、あんなことは愚の骨頂で、そんな暇があったら何でもまとまった論文なり小説なりを一冊でも多く読んだ方がはるかに実力がつきます。
- (14)同じ理由で、単語集をおぼえるのもあまり感心しません。

(15) 単語をおぼえたいなら、その単語の出てくるセンテンスを全部暗記した方がずっと効果的です。

(16) というと大変なようですが、ちょうど音感を学ぶ際に、単音でおぼえるより和音でおぼえる方がやさしいのと同様に、意味を持った文章として頭に入れて置く方がポツリと単語を暗記するより却^{かえ}って容易で、そのうえ忘れないものです。

(17) これは、私はその方はよく知りませんが、心理学的にも証明されることだと思います。

2. (1) 知らない単語が出てくるとすぐ辞書を引くというのも実はあまり感心しません。

(2) 出来るだけ前後の関係から意味の見当をつけるように努めることです。

(3) 私など決して言葉を多く知っている方ではないのですが、生来不精なものですから、読書の際、側に辞書を置かない習慣が前からついているので、今まで知らない字が出て来てもつい面倒になって大体の推察でそのまま読過してしまうのです。

(4) 同じ未知の語に何度も出くわしているうちに、その語が使われている状況の類似性がだんだんハッキリして来て、そこから逆にその意味が確定されて来るものです。このようにして一度も辞書を引かないで意味をおぼえてしまった言葉が相当あります。

(5) あの有名な『蘭学事始』の中に、そうしたおぼえ方の適例が出ています。

(6) あの場合は辞書がないから止むなくそういう面倒な方法をとったので、立派な辞書がある今日は通用しないやり方のように思われますが、必ずしもそうではないので、寧ろ私にいわせれば、今日はあまり便利な辞書が出来てしまったので、辞書に頼りすぎて、いつまでたっても読書力がつかないという状態じゃないかと思うのです。

(7) 無論私のように不精なのは決して褒めたことではなく、知らない字が出たら引くのが正しい勉強の仕方には違いありませんが、解毒剤のつもりで少し極端な自分の場合を挙げてみたのです。

(8) P・O・D とかザンデルスとかラルースとかいった同じ外国語で説明してある辞書を使うのが、無論本筋のやり方です。

P157 ~ 159

<コメント>

戦後日本の政治学の第一人者、丸山眞男先生の「外国語学習」の方法。第一が「音読」、第二が「文脈の中からことばの意味を類推すること」。大賛成です。但し、高等学校 3 年生までの英語の教科書に出てくる単語は、一語一語ていねいに辞書を引く。そして、英語の教科書の文脈(コンテキスト)の中で、語句は、身に着けることが大事。

2023 年 1 月 11 日(水)林明夫

* POD は、Pocket Oxford Dictionary の略